

第3章 流域の社会状況

山国川は、河口から^{やかたがわ}屋形川が合流する上流付近までの間は、大分県と福岡県の県境を流れる河川で、その上流域はすべて大分県内である。

大分県側は、河川沿いに下流より^{なかつし}中津市（旧中津市、旧^{さんこうむら}三光村、旧^{ほんやばけいまち}本耶馬溪町、旧^{やばけいまち}耶馬溪町、旧^{やまくにまち}山国町）とつづき、流域南部の山地に^{いんないまち}宇佐市（旧院内町）、^{ひたし}白田市、^{くすまち}玖珠町の一部が入る。

福岡県側は、河川沿いに下流より^{よしとみまち}吉富町、^{こうげまち}上毛町（旧^{しんよしとみむら}新吉富村、旧^{たいへいむら}大平村）とつづく。

両県合せて、3市3町にまたがっている。

3-1 土地利用

山国川は、流域の約8割が^{やばひたひこさんこくていこうえん}耶馬日田英彦山国定公園で占められており、土地利用の大半は林野と耕地が占め、その割合は平成12年で約98%となっている。

流域内の宅地面積は、想定氾濫区域の大半を占める中津市で増加傾向にあり、都市化・宅地化が進展している。

表 3-1 土地利用の経年変化表(ha)

区 分	昭和 45 年	昭和 55 年	平成 2 年	平成 12 年
総面積	536.0	536.0	536.0	536.0
宅 地	(1.4%) 7.0	(1.7%) 9.0	(2.0%) 11.0	(2.3%) 12.0
林 野	(91.0%) 488.0	(91.6%) 491.0	(92.0%) 493.0	(91.0%) 488.0
耕 地	(7.6%) 41.0	(6.7%) 36.0	(6.0%) 32.0	(6.7%) 36.0

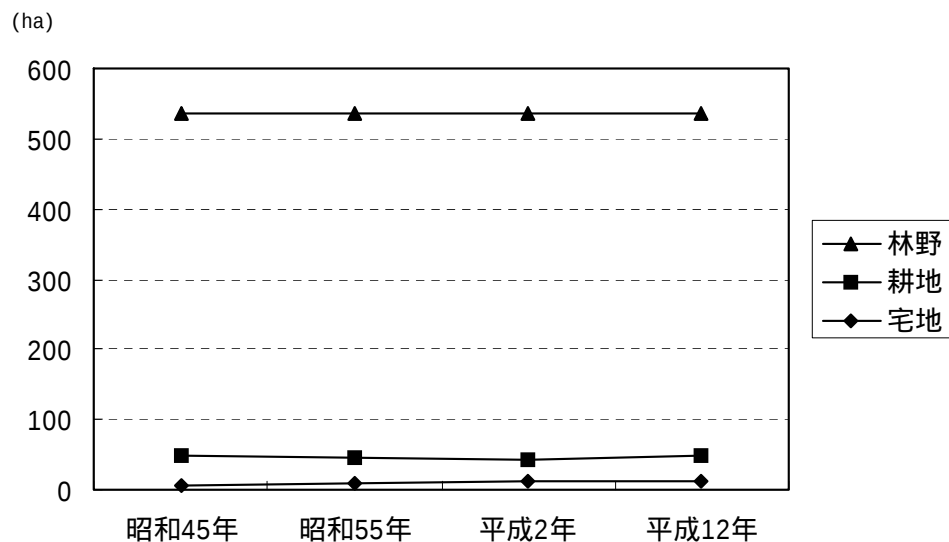


図 3-1 土地利用経年変化図

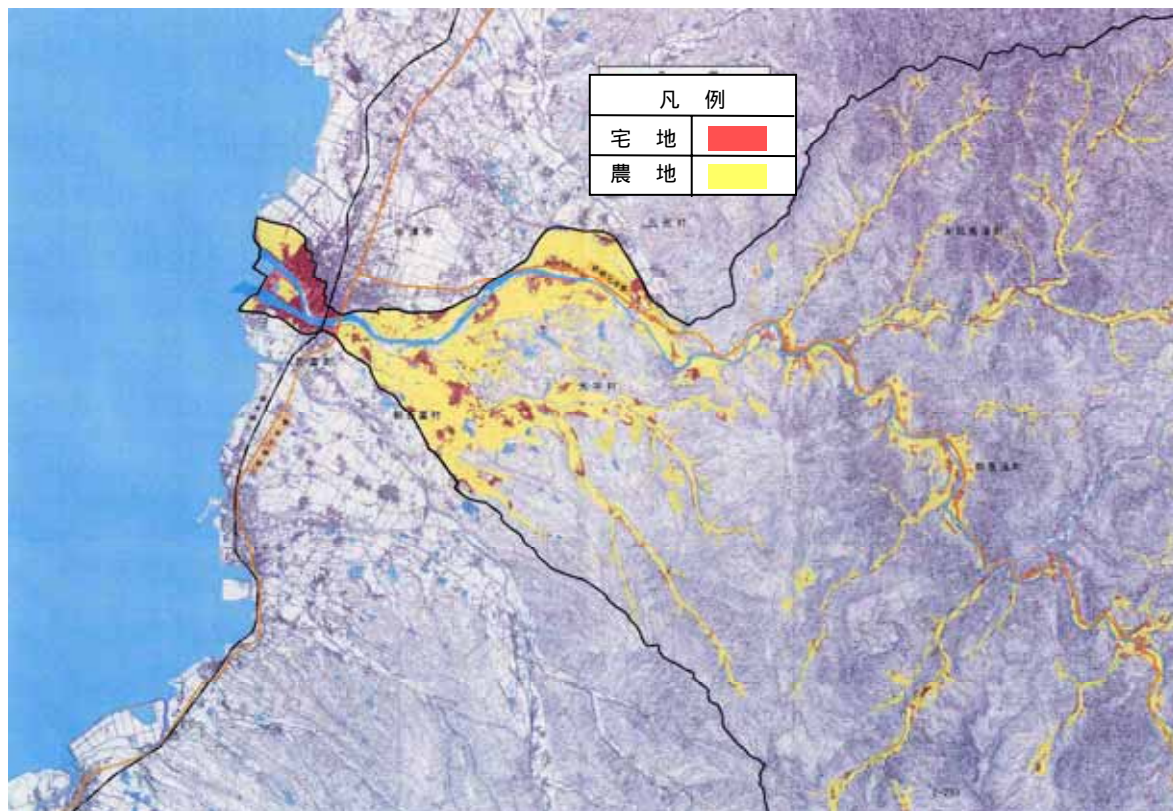


图 3-3 土地利用图(昭和 46 年)

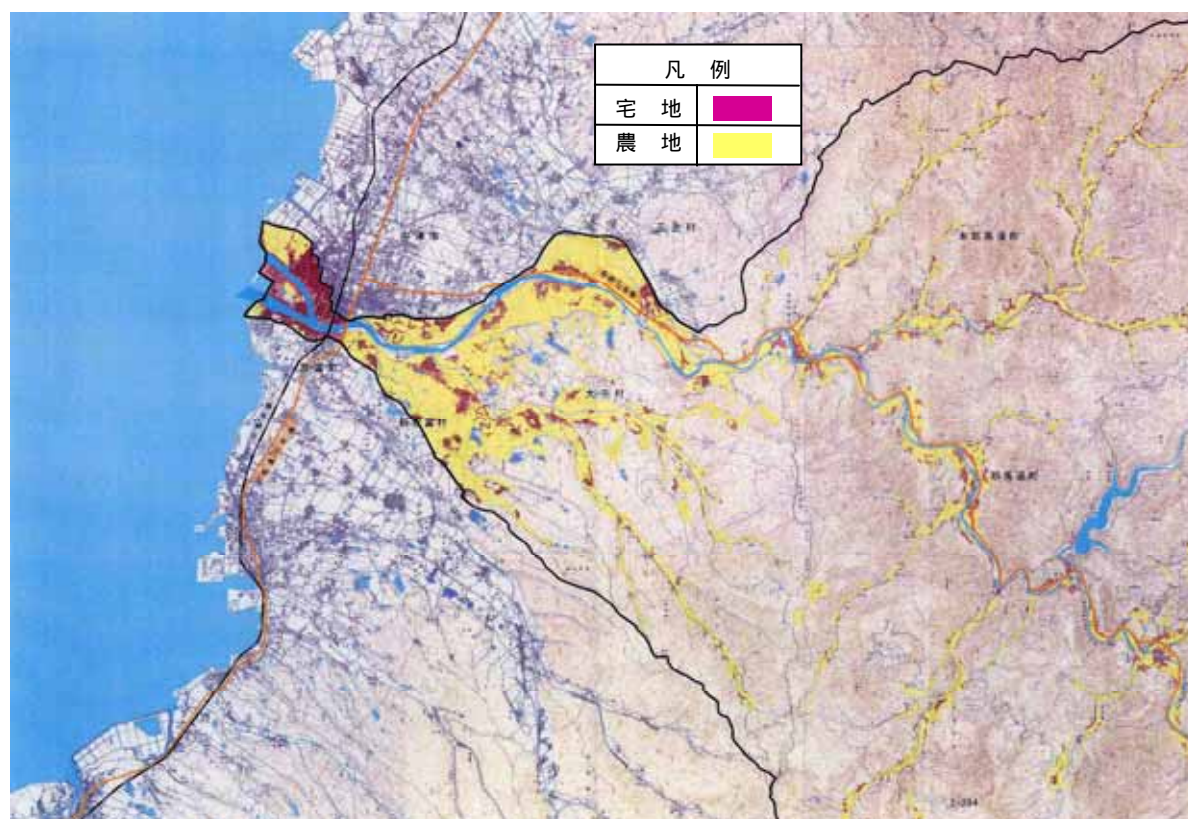


图 3-4 土地利用图(昭和 61 年)

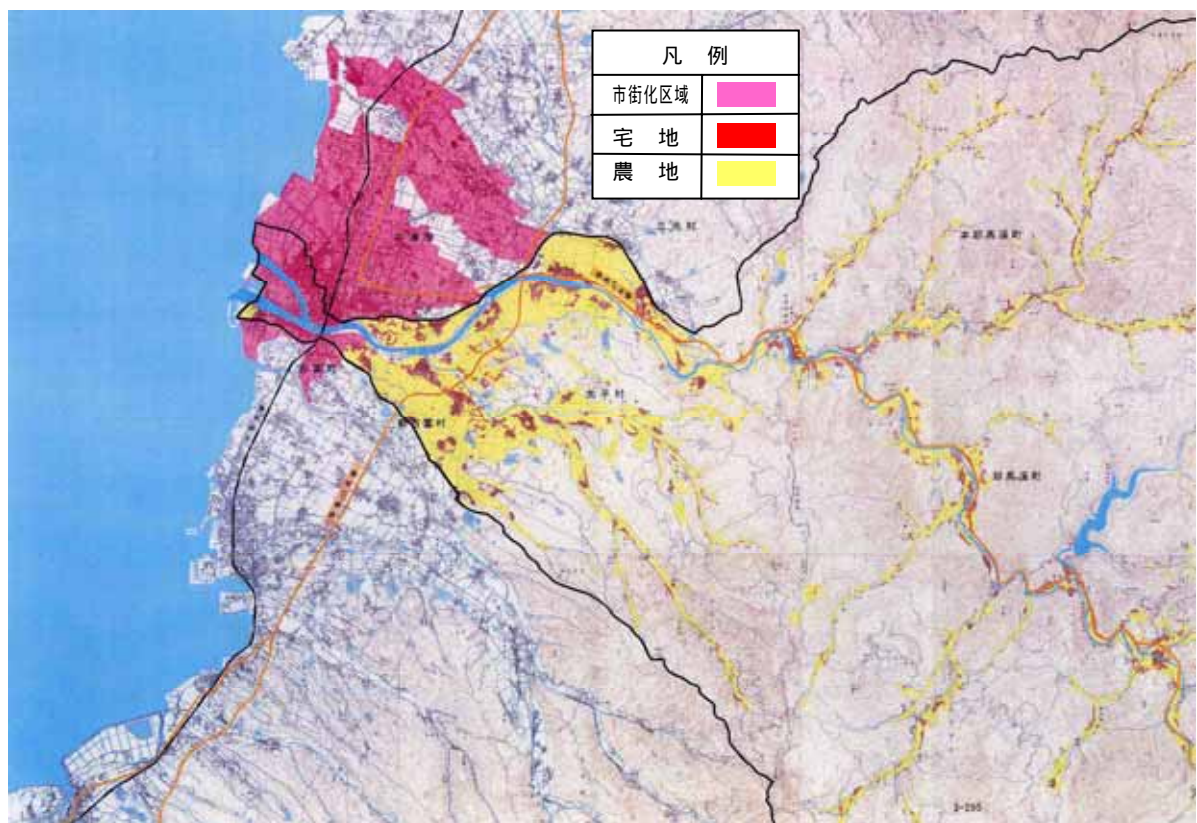


图 3-5 土地利用图(平成 12 年)

3 - 2 人口

山国川流域に関連する 3 市 3 町の総人口は約 20 万人で、流域内の主な都市である中津市の人口は約 8 万人を占めている。流域内の人口は約 3 万 6 千人である。

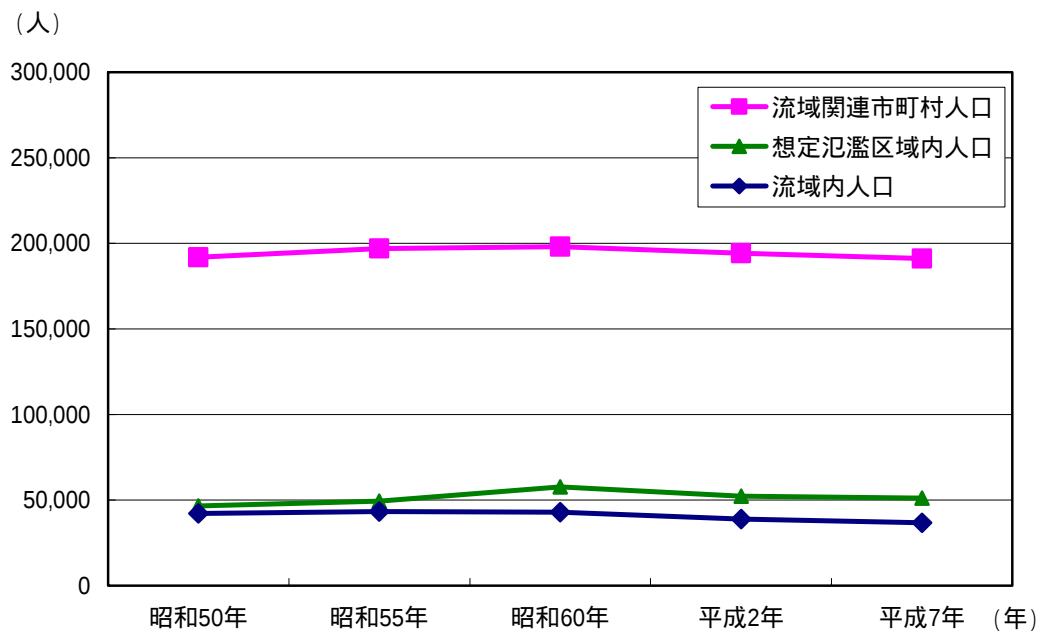
表 3-2 流域内及び関係行政区人口の推移

区 分	S.50 (人)	S.55 (人)	S.60 (人)	H.2 (人)	H.7 (人)	人口密度 (人/km ²)
流域内 540.0 km ²	42,275	(2.6%) 43,375	(1.7%) 43,013	(-8.1%) 38,849	(-12.9%) 36,801	68.2
流域関連市町村 (3 市 3 町) 1,227.2 km ²	191,855	(2.7%) 197,012	(3.2%) 198,020	(1.3%) 194,278	(-0.3%) 191,192	160.5
想定氾濫区域内 28.5 km ²	46,573	(6.1%) 49,417	(24.1%) 57,800	(12.1%) 52,214	(9.7%) 51,077	1792.2

注 1) 市町村及び各県人口密度：平成 7 年

2) ()は昭和 50 年からの増加率

出典) 3 市 3 町：総務庁統計局「国勢調査」より



流域内人口及び想定氾濫区域内人口：河川現況調査

図 3-6 流域内人口の推移図

3-3 産業経済

流域内の関係3市3町の産業特性を産業別就業人口からみると、中津市及び日田市において第3次産業の占める割合が大きく、典型的な都市型の産業構造の形態をなしており、年々この傾向が強くなっている。

また、中津市の臨海部においては、自動車工業などの工業団地があり、近傍には製鉄会社も稼働しており、中津港、産業道路等が建設され、臨海交通にも恵まれた工業地帯となっている。一方、中津平野は大分県下最大の穀倉地帯を形成している。

第1次産業については、中津平野で古くから稲作が盛んであるとともに、北九州に近い地の利を活かして野菜や果樹の都市近郊型農業が進展している。

特産品としては、小ねぎ、白菜、きゅうり、いちご、なし、巨峰、ブロッコリー、桃等がある。

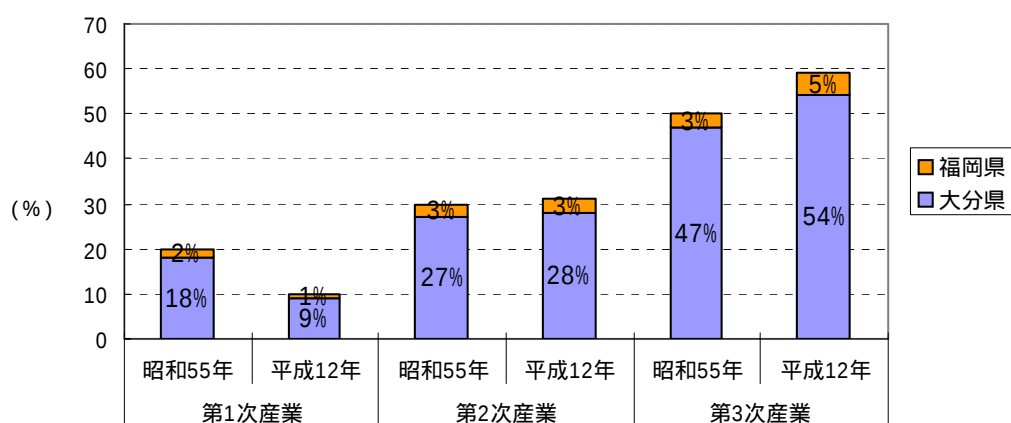


図 3-7 流域関連市町村別就労人口の推移

表 3-3 流域関係市町村別産業就労人口(平成12年)

県	市町村名		就労人口(人)				
	合併後	合併前	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能
大分県	中津市	中津市	31,277	1,651	10,061	19,341	224
		三光村	2,697	494	887	1,316	0
		本耶馬溪町	1,818	320	594	904	0
		耶馬溪町	2,646	590	889	1,167	0
		山国町	1,698	411	566	721	0
	宇佐市	院内町	2,532	635	840	1,056	1
	玖珠町	〃	9,964	2,013	2,261	5,684	6
	日田市	〃	31,593	2,504	9,842	19,162	85
福岡県	吉富町	〃	3,311	187	1,351	1,762	11
	上毛町	新吉富村	1,962	239	659	1,064	0
		大平村	1,983	400	635	944	4

出典：大分県統計年鑑、福岡県統計年鑑

3-4 交 通

山国川流域の下流にある中津市は、福岡県北九州市と大分県大分市のほぼ中間に位置し、北九州市から約 50km、大分市から約 80km、また流域の南側山地を挟み、大分県日田市と約 30km の距離にある。

中津市と日田市を結ぶ街道は、古くから交通の難所であり、菊池寛の小説「恩讐の彼方に」で有名となった「禅海和尚」と「青の洞門」の話は、昔の人々がこの街道の険しさに悩まされていた姿を今に伝えている。

現在は、道路交通では、北九州市と大分市を結ぶ国道 10 号や国道 10 号北大バイパス、山国川沿いに中津市と日田市を結ぶ国道 212 号が、また、鉄道では東九州の主要都市を結ぶ JR 日豊本線が整備され、中津駅は小倉駅と大分駅間の主要駅として位置付けられている。

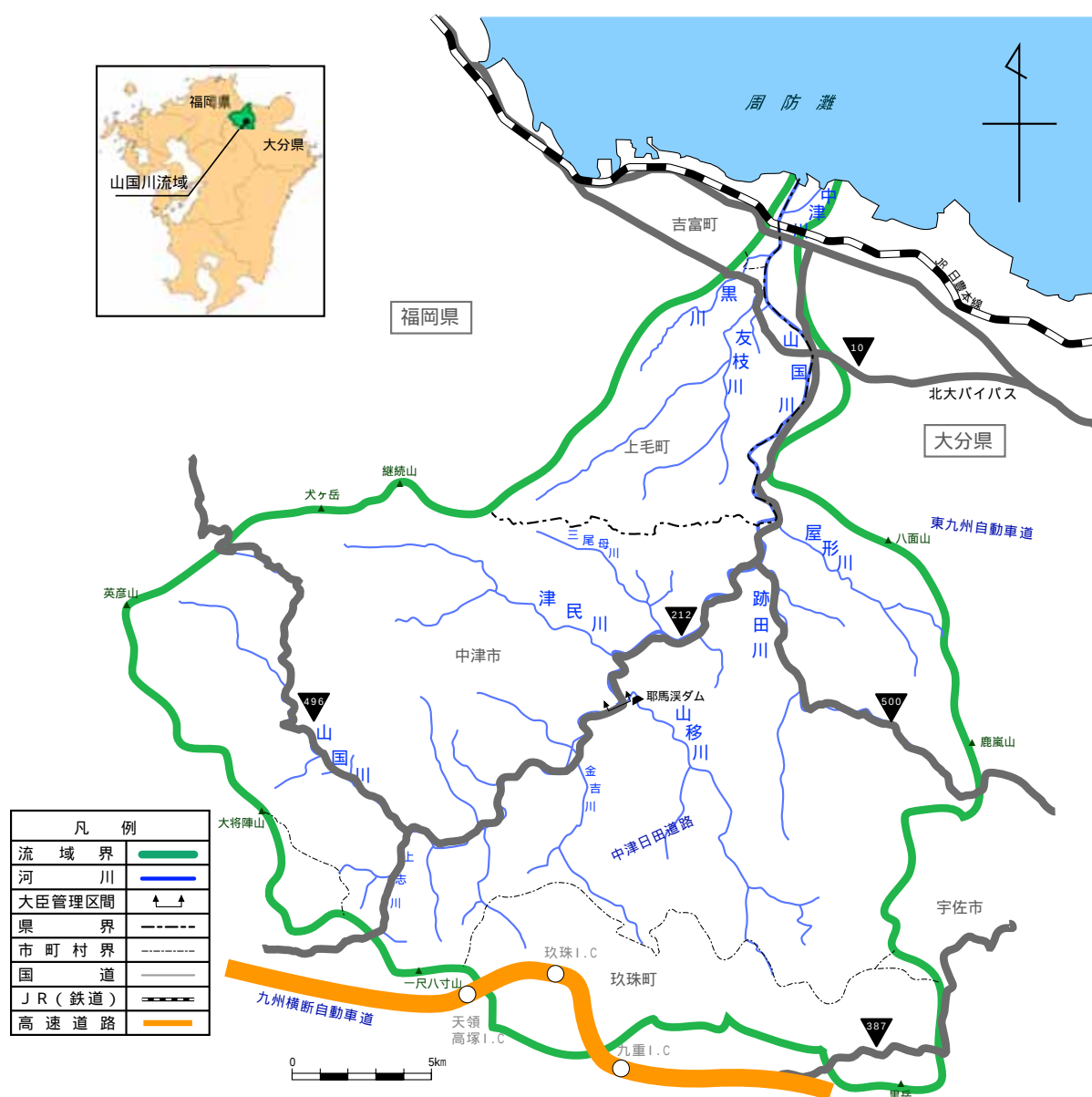


図 3-9 山国川流域の交通網図